

平成26年度事業計画

福祉と共生のまちづくりを推進

「第2次地域福祉活動計画」の策定から4年目を迎えました。引き続き地域福祉の充実に取り組みとともに、次の5年を見据えて「第3次地域福祉活動計画」の策定に向け準備を進めてまいります。

基本方針

- 1 深刻な生活課題や社会的孤立の予防など、今日的な福祉課題に引き合い、住民主体の理念に基づいて誰もが安心して暮らせる共生のまちづくりをめざして取り組みます。
- 2 地域福祉を進めるうえでの指針である「第2次地域福祉活動計画」の目標達成に向けた取り組みとして、地域福祉の実践活動を担う地区福祉委員会の人材育成・組織強化をねらいとする巡回型「地域福祉講座」の開催や小地域ネットワーク事業、地域の交流の場づくりなどの充実を図ります。
- 3 福祉基金、善意銀行などの積立基金について、預託者の善意を尊重し、慎重かつ有効な基金運営を図ります。

重点事業

- ① 「第2次地域福祉活動計画」の推進ならびに次期計画策定準備
- ② 高齢者地域支えあい事業、生活・介護支援サポーター事業対象者の拡大と支援の充実
- ③ ボランティア・市民活動センターの体制の充実ならびに災害発生時における災害ボランティアセンターの初動体制の整備(3面に関連記事)
- ④ 福祉教育および社協活動の啓発の機会である出前講座を「わくわくチャレンジ講座」としてプログラム化し、地域福祉の充実と社協への理解を広める
- ⑤ 社会福祉法人新会計基準への平成27年度移行に向けた準備
- ⑥ 新たな事業として(仮称)社協まつりを開催。「福祉と共生のまちづくり講演会」と合わせ
- ⑦ ホームページのリニューアル、広報活動の充実
- ⑧ 市をはじめとした各関係機関との適切な連絡調整を行う

- ④ 福祉教育および社協活動の啓発の機会である出前講座を「わくわくチャレンジ講座」としてプログラム化し、地域福祉の充実と社協への



お花見会で世代間交流 4月初頭には各地区でお花見イベントが行われました。写真は玉川牧田地区で行われたお花見サロンです。子どもも高齢者も集まる世代間交流のイベントとして定着しています。

こども映画会

「怪盗グルーのミニオン危機一発」(2D)

とき 5月5日(祝)
午前の部 10時～ (開場9時30分)
午後の部 13時30分～ (開場13時)

ところ 高槻現代劇場 大ホール(定員1,500人)
入場券 4月28日(月)から下記で配布(無料)
配布場所

- ① 社会福祉協議会(市城西町庁舎)
 - ② 市内各支所: 富田/三箇牧/樫田
 - ③ 行政サービスコーナー: 今城塚公民館/阪急高槻/阪急上牧/JR高槻駅前
- ※各執務時間内



対象 高校生以下の子どもと保護者

問い合わせ 福祉振興課(674-7163)

主催 高槻市民生委員児童委員協議会

平成26年度 社会福祉法人 高槻市社会福祉協議会 社会福祉事業会計収入支出予算

単位:千円

項目	予算額
法人運営事業	138,555
共同募金配分金事業	1,864
ボランティア活動推進事業	7,489
小地域ネットワーク活動推進事業	47,315
福祉団体連絡調整事業	854
善意銀行運営事業	3,177
福祉サービス事業	2,825
日常生活自立支援事業	20,866
資金貸付事業	6,019
総合福祉相談事業	509
合計	229,473

平成26年度 組織構成会員募集

社会福祉事業を運営する法人・事業所、社会福祉の活動(NPO法人・ボランティアなど)を行う団体などを対象に、社会福祉協議会の組織構成会員として事業の運営・推進にご協力いただける方を募集します。

年会費 一口 5,000円
募集期間 4月1日～5月31日
問い合わせ
総務企画課 電話 674-7496

平成26年度 共同募金配分申請

助成対象

大阪府内の民間社会福祉施設など、社会福祉を目的とする事業を行なう法人・団体、またはボランティア活動を行なう団体。

申請受付期間

5月1日～5月20日

詳しくは大阪府共同募金会ホームページを参照してください。

問い合わせ 社会福祉法人大阪府共同募金会

電話 06-6762-8717

FAX 06-6762-8718

ホームページ www.akaihane-osaka.or.jp

平成25年度 募金・義援金結果報告

赤い羽根共同募金
募金額 13,348,712円

歳末たすけあい運動
募金額 11,449,146円

東日本大震災義援金(市社協受付分)
義援金額 1,157,358円

※義援金は引き続き日本赤十字社で平成27年3月31日まで受け付けています。窓口は 市社協福祉振興課です。

ご協力ありがとうございました。

点心

通学路での「子ども見守り活動」も10年目の春を迎える▼桜の便りと共にまだピカピカの1年生が誕生する▼
▼昨年の新入生は1年が経って、「おはよう」の挨拶ができるようになったらどうか?▼
▼声を出して挨拶できる児童は約80%、目で挨拶が約10%、無視が約10%といったところか▼(挨拶なしで)「おはよう」の挨拶を「おはよう」と出迎えているが、無視組がいるという▼
▼そういえば挨拶しない保護者もいる。子どもがしないのはそのためか▼
▼中学校でも「おはよう運動」を展開しており、在学中に挨拶ができることを願っている。部活に入れば解決できるのでは▼
▼民生委員児童委員も「オアシス運動」を展開中で「あいさつは絆づくりの第一歩」を提唱している▼
▼子どもとおとなが心を通わせるのは、挨拶が一番の近道と考える。「おはよう」が言える問柄になると、親近感が一挙に増す。「見守り」が長く続けられるよう健康でありたい。(東出)